

# うきたむ考古通信

2017年10月号

■発行者 うきたむ考古の会  
事務局 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内  
〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117  
電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

## 展覧会の案内

### 👁 第25回企画展 「木と生きる～弥生・古墳時代の木製品～」

平成29年度の企画展が9月16日に開展いたしました。木は太古より、人々の生活と密接にかかわってきました。縄文時代の植物利用をテーマとした昨年度の企画展「森と暮らせば」に続き、今年度の第25回企画展は農耕が始まった弥生時代、その社会が成熟していく古墳時代の植物利用について「木と生きる～弥生・古墳時代の木製品～」と題して人々の暮らしの中で、木がどのように利用されてきたのかを木製品から探ることとしました。展示構成は昨年度の「森と暮らせば」に倣ったものとしました。

第一章「住と木工」では、弥生時代では中在家南遺跡の中期の建築部材や高床式倉庫に使われたとみられる梯子、古墳時代では高田B遺跡の建築部材と長表遺跡と嶋遺跡の高床式倉庫に使われたとみられるねずみ返し、西沼田遺跡の梯子等です。また、木材を加工した、弥生時代の百川田遺跡の大型蛤刃石斧や江俣遺跡の扁平片刃石斧、これらの石斧につけられた高田B遺跡や中在家南遺跡から出土した石斧の柄を展示しています。古墳時代になると石斧はなくなり、その機能は鉄斧に引き継がれます。また、鉄の刃物が出現するとその刃先を研ぐ砥石も出現します。鷲の森遺跡の鉄斧高揃南遺跡ほかの砥石と藤治屋敷遺跡の鉄斧柄も展示しました。また、おそらく稲わら加工に用いられたと見られる横槌が弥生時代の高田B遺跡や古墳時代の藤治屋敷、西沼田遺跡で出土し、わらを編む道具として使われたコモ槌も弥生時代の高田B、古墳時代の中在家南、西沼田遺跡で見つかっています。

第二章「食料獲得と加工」では高田B遺跡や中在家南遺跡の弥生時代の弓と石鏃、藤治屋敷、百川田、西沼田遺跡の古墳時代の弓と矢柄を展示しました。東北の弥生時代の弓はそのほとんどが狩猟用と考えられ、古墳時代でも弓は武具としてだけでなく狩猟にも使われたと考えられています。稲作が始まって、相変わらず狩猟への依存度は少なくはなかったようです。

しかし、弥生時代に入ると縄文時代にはなかった木製品が出現します。農耕にかかわる道具です。農耕用の道具は基本的には古墳時代以降にも受け継がれます。弥生時代では高田B遺跡や中在家南遺跡の直柄平鋤・又鋤、泥除け、一木鋤、刈払い具、掘棒を展示しました。古墳時代では藤治屋敷遺跡や板橋2遺跡、西沼田遺跡の各種の鋤や鋤、田下駄、首木なども展示しました。

また、弥生時代の収穫具として高田B遺跡、萩生田遺跡の石包丁そして古墳時代の収穫具として高田B、板橋2遺跡の鉄鎌の柄、食料加工用具として弥生時代の中在家南、高田B遺跡、古墳時代の藤治屋敷遺跡や西沼田遺跡の臼や杵を展示しました。

第三章「容器」では高田B、中在家南遺跡の弥生時代の盤や槽、古墳時代では高田B、板橋1、藤治屋敷、百川田遺跡の盤や槽、椀を展示しました。

第四章は「衣・調・装い・祈り」とし、「衣」では中在家南、高田B遺跡の弥生時代の紡績用具、機織機の部品、骨針、古墳時代では嶋、西沼田、藤治屋敷、寝鹿の製糸にかかる道具と織機の部品、それに西沼田遺跡で復元された古墳時代の「織機」を展示しました。

「調」では百川田遺跡から出土した古墳時代の筑形木製品や藤治屋敷の琴柱、「装い」では嶋遺跡の堅櫛を、「祈り」では藤治屋敷、嶋、西沼田遺跡の鏝形、舟形、矢形、刀形など宗教行事で使われたと考えられる木製品を展示しました。

今回の企画展では県内での出土がない弥生時代の木製品を、仙台市教育委員化からお借りすることができ、県内では初となる弥生時代の木製品を多数展示しました。また、古墳時代を含めて農耕が始まってからの多様な木の道具や住まいの部材を通じて、往時の生活に思いを馳せていただきたいと思います。折角の機会ですので、会員の皆様にも是非ご覧いただきたいと思います。

## 館事業報告

### ♥大人の自由研究

7月22日に開催しました。初めての開催でしたが9名の方に参加していただきました。自由研究とはいっても2回にわたる開催で編布を作ることを目的としており、今回は青苧から繊維を取るまでの工程に挑戦しました。原料の青苧は館職員の伊藤さんの実家に生えている長さ2mあまりの立派なもので、参加者一同びっくり。12月16日の2回目の自由研究に備えての準備が終わりました。

### ♥勾玉・弓矢・石器をつくろう

5月21日に続き、今年2回目となる体験学習を夏休み期間中である8月5日(土)に開催しました。

2回目は夏休み期間の開催としており、昨年はリオ五輪の開会式と重なり、参加者が少なかったということもあり、今年は多くの参加者があると期待していましたが、今年もふるわず、27名の参加に止まりました。

### ♥スクールオブジョウモン

夏休みの1日を縄文時代人になって様々な体験をしようという企画で昨年に引き続き開催しました。体験メニューは昨年とほぼ同じ内容です。開講式に続いて「石器づくり実演」、「弓矢をうって獲物をとろう」、「石器を使っていろいろなものを切ってみよう」、「火をおこそう、縄文バーベキュー」、「ドッキーをつくろう」、「今日のおさらい」、閉講式と丸1日“縄文”に浸っていただきました。縄文バーベキューはシカ(エゾシカ)とウサギ(海外産)、みんなでおいしく頂きました。参加者は7名と少なかったのですが、充実した1日を過ごしていただきました。

## 秋の遺跡めぐり

●10月1日(日)に秋の遺跡めぐりを開催しました。参加者総勢26名、今回もマイクロバスの定員一杯となりました。好天に恵まれる中、北村山地域の遺跡と資料館を巡りました。庄内から2名の方が参加しましたが、案内を期待していましたがご当地の方の参加はありませんでした。東根市小田島城跡、長瀬本楯、村山市中村A遺跡、大石田町歴史民俗資料館、角二山石器時代遺跡、駒籠楯跡、史跡延沢城跡を訪れました。県庁前で最後の人員を乗せ、山形・蔵王インターから高速に入りました。山形自動車道、東北中央道を経て東根インターで高速を降り、小田島城へ。この道すがら、高速道路関係で掘った遺跡や近隣の解説をしました。にひやく寺、お花山古墳群、境田D、C、馬洗場B、服部、藤治屋敷、向河原、渋江、高揃南、砂子田、中袋、西沼田、蔵増押切、板橋1・2、的場、蟹沢等々。今回の企画展の展示遺跡も4箇所ありました。

小田島城跡は都市化しており、遺構として現存するところは北西部の土塁くらいでしたが、都市計画道路での発掘場所等をまわりました。記念撮影をして長瀬本楯へ。遺跡の手前に大きな畜舎が並んでおり、前と変わった風景となっていました。堀沿いを散策し、土橋から中へ。ここから、古銭が大量に出土した八反遺跡などが近くにあることも説明しました。

次は中村縄文公園へ。田んぼの真ん中にあり、昭和56年にほ場整備事業の調査で中期末の複式炉を持つ竪穴が見つかった遺跡で、館長がはじめて大沼與右衛門さんに会った遺跡でした。復元竪穴をバックに記念撮影。中村遺跡を後にして大久保に出て国道347号線を北上しました。途中、車内から白鳥館跡、三難所の三ヶ瀬、長島橋を通り、富並地区へ。縄文後期・晩期の宮の前遺跡、そこから見た西海淵遺跡、十四代の高木酒造、古道遺跡、中山遺跡を経由して大石田の歴史民俗資料館へ。

歴史民俗資料館の展示及び聴禽書屋を見学しました。その後、角二山遺跡へ。県指定史跡内に復元された縄文時代前期末の竪穴住居、今年も東北大学が調査した細石刃石器群について北海道との関係も含めて説明しました。

昼食はあったまりランド深堀の向かいにある「蕎麦屋まんきち」。1回で茹でる量が多くはないため、皆が終えるまで時間がかかりましたが、おいしい天ぷらと茹でたての蕎麦に舌鼓を打ちました。蕎麦屋での団体客は難しいという理由も分かるような気がしました。

昼食後は水駅の野後駅の擬定地となっている駒籠楯跡へ。現地で土塁や堀の遺構、発掘箇所の遺構配置図で概要を説明しました。最上川に近いところの方形館を見に行った方もいました。

最後は尾花沢市の史跡延沢城跡へ。調査を担当した大類誠さんの案内で大手門から本丸まで約20分をかけて登りました。途中七曲と呼ばれる急斜面もありましたが、多くの方が本丸跡まで登り切りました。柵形や本丸の調査地の遺構の状況などの説明を受け、皆、納得しました。説明していただいた大類さん、本当にありがとうございました。

大手門に近い常盤小学校で大類さんとお別れして、途中トイレ休憩をとって、県庁前、山形駅前、資料館と予定より少し遅れましたが、皆さん無事で戻ることができました。

## 館主催事業の案内

### 🎧第19期考古学セミナー開催中

「木と生きる－弥生・古墳時代の木製品－」という企画展のテーマに沿って、考えるセミナーを好評開催中です。あと1回の講座が残っています。開講時間は各日とも13:30～16:00です。

〈第1回〉9月24日(日)

「展示資料解説」

伊藤 純子 (当館職員)

「弥生・古墳時代の木製品の概要」

渋谷 孝雄 (当館館長)

〈第2回〉10月8日(日)

「仙台平野の弥生時代木製品が出土した遺跡」 荒井 格 (仙台市教育委員会)

「仙台平野の弥生時代の木製品」 荒井 格 (仙台市教育委員会)

〈第3回〉10月22日(日)

「服部・藤治屋敷遺跡の調査と古墳時代木製品」 高桑 弘美 ((公財)山形県埋蔵文化財センター)

「板橋2遺跡の調査と古墳時代木製品」 斎藤 健 ((公財)山形県埋蔵文化財センター)

対 象：一般50名程度

参加費：全3回1,500円(1回600円)

### ♥勾玉・弓矢・石器、古代風ブレスレットをつくろう

5月20日、8月5日に続き、今年3回目となる勾玉づくり、弓矢づくり、石器づくり、そして6月24日に続き2回目となる古代ブレスレットをつくろうが開催されます。

11月3日(金)文化の日の開催です。家族皆さんでご参加下さい。

### ♥ガラス玉をつくろう

6月17日(土)に続き今年2回目が12月2日(土)に開催されます。できるだけ多くの方に体験していただきたいとの考えから今回も三つの時間帯を設定して開催することとしていますので、最大15組までの予約を受けられます。リピーターの多い体験学習ですが、受入数に余裕があるかと思えます。予約が必要ですが奮ってお申し込み下さい。

### ♥大人の自由研究

7月22日(土)に続き第2回が12月16日(土)に開催されます。前回の「繊維をとる」に続き、「繊維をよる」ことを行い、よった繊維を使ってコースターを作る予定です。第1回に参加されていない方も参加できますので、奮ってお申し込み下さい。

## 📍企画展記念講演会

平成 28 年 11 月 19 日(日)「実験で検証する弥生・古墳時代の木製品」

講師 山田 昌久氏 (首都大学東京教授)

講師の山田昌久先生は遺跡から出土する木製品研究の第一人者です。全国各地の各時代の出土木製品について指導をなさっています。また、木製品製作の実験にも、豊富な経験をお持ちで、各地の博物館や資料館での展示資料作成の指導にも携わっています。山形県内の出土木製品についても、指導を頂いています。

### 館共催事業の案内

## 📍第ⅩⅡ期うきたむ学講座特別講座のご案内

### 1. 趣 旨

置賜地方の歴史解明および歴史理解の普及を広い視野から幅広く推進するため、置賜地方の歴史等関係者および団体が相集い研修し合うことを目的とする。今年度は、特別講座を南陽市で行い、南陽市の遺跡・文化財等の理解を深め、考察する。

2. 名 称 第ⅩⅡ期うきたむ学講座・特別講座

3. 主 催 うきたむ学講座実行委員会  
共催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館  
協力 南陽市教育委員会

4. 期 日 平成 29 年 10 月 29 日(日)  
受付開始 12:30/講座開始 13:00

5. 会 場 えくぼプラザ 大会議室南  
(南陽市赤湯 791 番地の 1)

### 6. 内 容

講 座 13:05~14:20 佐藤 鎮雄 氏(前山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長)  
講座①「置賜の前期古墳研究の課題ー長岡地区古墳群の成立と展開をめぐってー」

14:30~15:15 角田 朋行 氏(南陽市教育委員会社会教育課長補佐)  
講座②「南陽市長岡南森調査研究報告ー南森古墳推定遺跡測量調査を終えてー」

ー移動(約15分)ー

現地見学会 15:30~16:10

7. 参加料金 一人 600 円(受講料)

# 東北情報館



## 第25回特別展 『木と生きる—弥生・古墳時代の木製品—』

入館料 一般／200円 学生／100円 高校生以下／無料

9月16日～12月3日 うきたむ風土記の丘考古資料館 TEL: 0238-52-2585



## プライム企画展 『GAGAKU—やまがたに息づく宮廷音楽—』

入館料 一般／300円 大学生／150円 高校生以下／無料

9月23日～12月3日 山形県立博物館 TEL: 023-645-1111



## 特別展 『上杉家の名刀と三十五腰』

入館料 一般／820円 高・大学生／510円 中・小学生／350円

9月23日～10月22日 米沢市上杉博物館 TEL: 0238-26-8001



## 特別展 『伊達政宗—生誕450年記念—』

入館料 一般／1200円 高・大学生／1000円 小・中学生／800円

10月7日～11月27日 仙台市博物館 TEL: 022-225-2557



## 伊達政宗生誕450年記念 『福島家がのこした伊達な文化』

入館料 一般／400円 学生・70歳以上／300円 高校生以下／無料

9月15日～11月23日 福島美術館 TEL: 022-266-1535



## 企画展 『発掘ふくしま4—土中の声に耳をすませば—』

入館料 一般・大学生／500円 高校生以下／無料

10月7日～11月26日 福島県立博物館 TEL: 0242-28-6000